

令和 4 年度 墨田区立第二寺島小学校 経営報告書

令和 5 年 3 月 1 5 日

学 校 目 標	豊かなつながりと挑戦の中で、知・徳・体の調和のとれた児童を育む学校 ・よく考えて工夫する子 ・思いやりがあり助け合う子 ・体力のある元気な子 ・ねばり強くやりぬく子
目指す学校像	TEAM 二寺 総合力で高め合う学校 組織的・計画的な運営、学び続ける教員、家庭・地域との協働
目指す子供像	<ul style="list-style-type: none"> <li>よく考えて、工夫する子 「自ら考え表現できる児童」 基礎・基本や学び方を身に付けている子 自ら問いや課題を見付け、工夫して遊び学び行動する子</li> <li>思いやりがあり、助け合う子 自己肯定感・自己有用感をもつ子 自他を大切にし、おもいやりある行動がとれる勇気のある子。</li> <li>体力のある、元気な子 遊び・運動が好きな子 健康のため自己管理ができる子</li> <li>ねばり強く、やりぬく子 自己や仲間のために自己の能力を発揮する子 リーダーシップ・フォロアーシップを発揮し協力して活動する子</li> </ul>
目指す教師像	<p><b>教職員の基本姿勢 「学校は子供たちのためにある」「1人ひとりの良さを引き出す指導」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめを絶対に許さず、偏見や差別をなくす人権尊重教育の徹底に努める。</li> <li>○特別支援教育への理解に努め、一人一人の良さを引き出し、勇気づける指導を進める。</li> <li>○保護者と共に、児童の成長を喜び合う。 明るさ温かさを根底にしなが、子供の思いを受け止め、良いことと悪いことを明確に教え、根気よく励ます。(体罰・暴言はあってはならない。)</li> <li>○分かる・できる喜びのある授業・教育活動を追求し、日々研究・研修に努める。</li> <li>○保護者・地域と温かい関係を築き、共によりよい教育環境・居場所を創造する。</li> <li>○組織的に協働し、プラス思考で発信できる。</li> </ul>

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	A	学力向上の組織的な対応が進んだ。区・全国の学力状況調査では、ほぼ、全校平均を上回った。タブレット端末を活用し授業が展開された。今後も、児童の主体的な学びを目指し、課題解決型の学習を推進していく。	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	B	特別支援コーディネーターを2名にし、校内委員会が定期的開催され、学びの教員・巡回心理士・SC・区のスーパーバイザー・医師など連携が進み、対応が組織的計画的に進んだ。個別の支援が進み、学習成果が上がっている。今後も関係機関との連携を充実させ、実態の分析・アセスメント・改善策と、途切れなく支援を進めていく。	A	A
	学校は、子供の将来の自立に向けた進路指導・相談活動に取り組んでいるか。	B	キャリアパスポートを全学年で実施し、発達の段階に応じたキャリア教育をさらに進めていく。特別活動(直接交流する縦割り班活動などの異学年交流)等計画通りには実施できなかった。今後は、交流の方法をさらに工夫する。	B	A
	学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	A	課題解決府型の授業への転換を進め授業改善を中心とした、校内研究を進め、研究発表会で成果を発信した。主体的に児童が課題解決に取り組むよう、タブレット活用も含めた研修・研	A	A

様式 4

		究が進んだ。今後も、校内での研修や、指導教諭の授業参観、各職層の研修を意図的に受けさせ、相互に学びあう集団となるように計画していく。		
	学校関係者評価委員会の意見等	<p>二寺小が区の研究協力校として発表した冊子を見た。地域や講師の方々を招き、多くの取組を行っていることに感心した。今後も豊かな関わりを大切にしてほしい。</p> <p>SDG sの目標を児童が認識し、取り組もうとしている。掲示物や学級の取組や発表の中に、目標への意識が見られる。児童の方が意識を高めている。大人が児童から教えられる。</p> <p>人員が不足している件など、大きな課題である。次年度は充足した状態を望み、都や区の支援が必須である。</p>		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	B	<p>情報共有には ICT を活用して、いじめ・不登校・問題行動への対応を組織的に行うようにしてきた。特に、担任の家庭訪問や外部関係機関（S S W・子育て総合支援センター）との連携・タブレットでのリモート授業・SSR（校内サポートルーム）が展開され、不登校児童の登校復帰・学級との関係作りにつながった。</p> <p>生活指導の基本ラインを全教職員が確認し、児童の規範意識の醸成や主体的な行動を引き出すようにしていく。特に、S N Sのモラル向上は毎月の取組としていく。</p> <p>アンケートを実施し、児童が相談しやすい体制を作ってきた。今後も全教職員が、全学年の児童との関わりを増やす取組を進める。</p>	B	A
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	B	<p>「時間」「礼儀」「責任」を基本に、児童の主体的な行動を認め繰り返し、指導を重ねてきた。制限のある中、学習活動や行事を工夫し、児童の達成感や自己肯定感・相互理解を高める活動を継続していく。</p> <p>ストレスをためている児童も見受けられる。温かい豊かな関りの場や、体験的な活動など、工夫した活動を計画していく。</p>	B	A
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	B	<p>登校班指導を保護者と連携して行い、安全に登校することができている。年間の安全指導を計画的に進めている。児童とSNS 学校ルールの見直しを進め、使用時のルール作りなど自分事としてとらえるよう指導していく。「自分の身は自分で守る。」様々な場面での危機への感度・対応力をあげるよう、安全教育を進める。</p>	B	A
	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	B	<p>フォームスにより、WEB でのアンケートを進めてきた。改善点は見直しをもって対策を立てる。行事でのアンケートなど、成果や課題が明確になった。次年度は保護者会を設定し、相互に情報共有や意見交換を進め、教育活動への理解を深める。個人面談 2 回また、随時の面談を実施し、保護者との連携を進めていく。</p>	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	<p>基本的な習慣やマナーは家庭で身に付けていくものである。家庭への支援が必要な点も見受けられる。学校での指導が多岐にわたりすぎる。地域の関わりなど必要な機関との連携を進めてほしい。学童保育も待機児がいる状況なので、新たに開設するなど区も進めている。児童の居場所作りは今後も必要な視点であるが、学校任せではできない。</p>			
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管	学校は、管理職の経営方針に基づき、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	A	<p>学校のグランドデザインを共有し、チームとしての動きをさらに活性化させる。組織の効率の良い運営のために、働き方改革を進める。役割や年間の計画と進行管理を主幹・主任教諭が中心となって進める。</p>	A	A
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価	B	<p>学力では向上が見られている。コロナ禍の中、体力面での取組の充実がさらに必要である。学年ごとの分析が必要である。</p>	B	A

様式 4

理 運 営	を適切に行っているか。		具体的な学力向上・体力向上への目標を設定する。保護者にも明示し、分かりやすく伝えていく。		
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	B	GIGA構想のもとタブレット端末の配布など教育活動が変革期にある。従来の教育活動とのバランスを取りながら、本校の自然環境を生かした、体験的な活動が展開できるよう、さらに環境を整える。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	タブレット端末による取組が展開されている。効果的な学習となるように工夫願いたい。視力低下などのマイナス面もある。時間や使用目的を明確にしたい。地域や校内環境を生かした教育は今後も展開してほしい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭 ・ 地域 連 携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	B	COCOO[区の新しい情報メール]による発信を増やした。保護者会の実施は目的を明確にして対面で行う。学校の感染状況を情報メールにより随時配信し、保護者にも協力を得る。HPでは、各学年のHPに教育活動を配信してきたが、今後はさらに、ICTを活用し、教育活動を積極的に配信していく。	B	A
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	B	感染予防をしながら、土曜日に分散授業参観が実施できた。今後も、感染予防を図りながら、個人面談・授業参観・保護者会などの機会を設け、学校教育への保護者の理解をさらに得られるようにする。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	公開が制限されていた。教育活動が十分見えない状況があった。今後は、公開や対面での会などにより、相互理解が深まると良い。			

2 令和3年度学校評価のまとめ

<p>学校運営連絡協議会の皆様には、体育学習発表会、音楽会、授業参観等、実際に参観いただいた。コロナ過の中でも、子供たちの学びを止めることなく進められたことに賛同を得た。しかし、学校の課題が多岐に渡りすぎている点は整理し、学校外の関係機関と連携し、抱え込みすぎないようにしていく必要があると指摘・助言もいただいた。</p> <p>学校生活では、コロナ後の生活が始まる。地域や人との関わりやつながりをもう一度再構成し、保護者・地域の信頼を得て、教育目標の達成・児童の健全育成・教育課題の解決に向けて教職員一同邁進していく所存である。</p>
---

以上の通り報告いたします。

墨田区立第二寺島小学校 校長 中村 奈緒美

公印